

主 文
 原判決を破毀する。
 本件を岐阜地方裁判所え差戻す。
 理 由

るてを分消に在る実許申請件占訟の告本人趣仮立な来ず次生審にな処のに件事こ違事すしれ処取れすをの処申本る訴分上て用ののは出生しを原前提ら取消現人本のとる一がするのとこ仮くそ容命法仮をはたや処ずし使分一A筈がを為力いの前知次取得告る欠るす第分ある目的でば基し許命底の分に訴は仮らと人処第はるり果を効ないのを一はし上た可抛去て処でに目つれに起を分到次処め本も次な分理仮ち分す入結分てぎ目と由第或対りし不に除り仮決は接がと事をこ仮態第件るれた第の全のそのく仮失はる仮行にむある理ば議によりは抛を依件判既の誤な情提と処は一仮為が一み処代の即処効立の処し過る理ば異議にて証行に本の分直所ん別訴るの事な本すこしてか保其りゐ件が或ず件並るしですその鉢立りめ等執分に備処を判何特のす他の様で棄は属以しのはあ長本分し禁本はずせの生（分本申あ為何の処下不仮と裁るは上去々かすし廢件係をる訴又で消の処炭をき分生更をもをが処の議がのはその假の由件こ令あ或法除交か示とを事り分あ本人とに次仮採と基処をさる更る假A異要収審は件解理由本る仮で立体をてりの的的分同亘処での請こ力二のてこに仮果はす変あにも分必回原又本見其てすて法申実行しあ審目処しに仮実収申し効第次つす権の結果或更はで様で処る有之しびたつし去つ違消て執行が原の仮為く件事回被なのり一よ為有方る効変或のうつ仮ず占有更及つ且と除従体取りいく利虞は接次を近本な有はらそあ第にを所双れ失は効も云あで禁ぜい変し誤り由をり自るお基をる人直一立年でか占旨なにでて区等至はらて或失るのがのをしな止斷の誤理行あれよにに令め告を第申二。明で趣は互ろつ鉢出乃合ぜつ効がず審とい出とは廢盲とをすの法は更務命分らにこ通議のたところの請しがおこよ本搬樞場禁よ失る禁原こな搬人由をとり釈示其違行變債分処に至るる異其したる申をる分等採占此炭分分に出れば來炭告理命令のな解判はは執情且処仮に然すえ処分し了いでの出あらず処人てのて採処処う搬そさは出採上の命あのも律と又請の事お仮ときと去教処行終な者そ搬で禁仮告し自つ用仮仮謂炭）消と現れる分のでも法律るし申そ議なの訴なる除が仮進てで有もしのを件上を独あ使ののと採る取こがらあ処もするであ更に異ず前のろあを審に訟しの占れ為もり本り等はでに二次るのがあるAせで仮た更つてで変分並にらて案こで行原則訴とも且そをる入てよA人の互二一あAで分ずて取法のれ變更あひ。は法止処令法拘以本とら執はにて了たりで炭す立つに唯告たが第第でて項処禁せ奪違次さはで云点達廢仮命訟にしにるかの人時し滿れあの採裏人あ分ば上し方件も法つ事仮を併をが一為或のとがをる分訴る請互まいそ告同行止さでもり表炭で処れて起双本而違よいの出し有分第て殺もると第分令か処はあ申は窮なほ上と並休為者た入と採の仮けつ提はをりをがにな次搬消占処がし抹もすのの処命か仮法しを方は又いすとい有し立分のもの件な從をて分あ分分係一及取の仮分とをせ信理由假分での方法令双そで更な為件失し所請に処等た本もい訴し処で処処關係炭を区的処的力判確理件処のそ済規命者めろ変はを事をとの申内仮人じば筈なく對仮の仮仮はて採分鉢此仮目効裁と告本仮もも救々分事しこ止で請除益的区を区分告禁れるぎ基にのもの件とりる処本て件ののとい上はのたての多処當らと廢の申排利目鉢分鉢一上をすな場に区分た本本果よ居假はつ本接分るな件審次れし者等仮ばかるをも妨害のを本処件第は炭言に過案鉢一れても結にてる分あく直処あれ本原一さ容務立くらなす令た処妨行効は假本は分採換様に本案鉢一ても尤の法しす処でなく直処免第為許債申基な効容命し仮有進失人件は旨処入くるるでじはな立いつ方為對仮柄ろとの法を

失件決定る本のを全す判々過本決見に接立保出裁云意ののと様直申を搬を失故た其るるをの炭分過のしもあす去議目採処や人為て失張除異のに全は告てし過主のに収盛保も上しとにて行別回しのばき解た人い執は有侵上れつ誤し告おのに占を律けにを為上にそめじ有法な行れをは点は為禁占てで執こ定応一くののをし法くは決一第し消出人と違基くのは示若取搬告者がにしりて前更の炭上有請令若通いは変分採は占申命ず請お人止処のA)の分らず申に告廢仮在ばる分処知て件上のの現れあ処仮をし本た分次のなが仮の定過るれ処一よとの件其規見たら仮第に何も本にのをえせ次く区(何も本並律之与示一な釐でなる申請法がを判第で本の切ある申は所害とてののる要で分審判損るしもAあの然処原裁にあ決るはでる当仮き令人でがた分欠すは件付仮他当請し処可止事本には果相申為仮不禁るはる請結上のて事をす点す申の平分しる必之求二分分行衡処とたにで要第認処執が仮的しるのにを仮のの件目為する所

[illegible]

分命令が第二次仮処分命令の内容と抵触するが故にそれ自体違法のものと做し延いてかかる仮処分の申請は第一次仮処分自体の効力を抹殺する為めに為されたものと認むるを相当とするが故に上告人の仮処分申請は本案権利の有無に拘らず違法性を帯有するものと断じたる上更に進んで上告人が違法仮処分の申請をした以上は裁判所がこれを看過して申請通りの決定を為したりとするも衡平上上告人に不法行為の過失の責あるものと断じ去りたるは到底首肯し得ざる所のものであり原判決は結局叙上の点において理由不備の瑕謹ありというを憚らない原裁判所としてはすべからず当事者の事実上の主張に即し上告人に本件仮処分を申請するについての実体の権利があつたか否かその権利があつたとしてもこれが保全手続を求むるだけの必要があつてかどうかその必要の限度を超えて申請をしなかつたかどうかまた上告人の本案の権利が無かつたにしもこれありと信ずるについて過失があつたか否か又更に本件仮処分申請が裁判所によつて許容せらるるに到つた前後の事情等を具さに審理の上判断すべかりしものと考え。

仍て当裁判所は前示上告理由は結局理由あるものと認め爾余の上告理由に対する判断を省略し民事訴訟法第四百七条第一項に則り主文の通り判決をする。

(裁判長裁判官 下飯坂潤夫 裁判官 山口正章 裁判官 渡辺門偉男)